

基本方針

I 人とつながる

施策

I-2 共にまちづくりを進める人材の育成

参考：
方向性

2 シチズンシップに富んだ人材の育成と連携に向けた取組み

取組項目

「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」の推進によるシチズンシップに富んだ人材の養成

現状等

静岡市のまちづくりの目的である「市民自治によるまちづくり」の実現に向け、「まちづくりは人づくり」という考え方のもと、平成28年度に庁内各課で実施していた人材養成事業（10講座）をひとつに束ね、一体的に推進する枠組みとして「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」を開校しました。開校からの7年間（H28～R4）では、講座数が10講座から27講座に拡大、令和元年度には高校生を対象としたブレ課程「高校生まちづくりスクール」2講座を新設、令和3年度末までの修了生数が延べ1,985人となるなど、着実に静岡市のまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材の養成をすることができています。また、講座の受講生と修了生を対象に、交流会「ここにわ」を年1回開催し、交流や仲間づくりの場の提供にも取り組んできました。

取組概要
（前期計画）

〔取組①〕「総合課程」「専門課程」「ブレ課程」の実施
講座カルテでの分析やシチズンシップ部会（講座所管課等で構成）により「こ・こ・に」各講座の質の向上に取組み、シチズンシップに富んだ人材の養成を充実していきます。
〔取組②〕修了生へのフォローアップの実施
修了生を活動につなげる受講後のフォローアップとして、交流会、情報提供、活動相談、まちづくりマスター認定などに取組み強化していきます。
〔取組③〕デジタル活用による多様な学習形態の導入促進
オンライン講座やオンデマンド配信などICTを活用した「デジタル」とワークショップやフィールドワークなど体験の持つ価値「リアル」を組合せ、より効果的で多様な学習形態の導入促進に取組みます。
〔取組④〕社会人の学び直しへの取組（リカレント教育、リスキリング）
絶えず変化する予測困難な社会へ適応していくために個人がアップデートするための学びを支援するなど「人生100年時代」に必要な取組を検討し実施していきます。

取組内容
（計画・実績）

年度	R5	R6	R7	R8	R9～12の取組
計画	① ◎「総合課程」「専門課程」「ブレ課程」の実施 ② ◎修了生へのフォローアップの実施 ③ ◎デジタル活用による多様な学習形態の導入促進 ④ ◎社会人の学び直しへの取組	① →継続 ② →継続 ③ →継続 ④ →継続	① →継続 ② →継続 ③ →継続 ④ →継続	① →継続 ② →継続 ③ →継続 ④ →継続	継続実施
実績	① ◎実施 ② ◎実施 ③ ◎実施 ④ ◎実施	① →継続 ② →継続 ③ →継続 ④ →継続			

凡 例

△調査・検討、○一部実施、◎実施、→継続、●実績なし、×中止

進 捗

②

凡例

①計画より進んでいる ②計画どおり ③計画より遅れている ④実績なし

効果

・シチズンシップに富んだ市民が増え、学んだ成果を活かし、人と人との相互のつながりや市との協働により、まちづくりに参画するようになります。

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.

I-2-1

基本方針

I 人とつながる

施策

I-2 共にまちづくりを進める人材の育成

参考：
方向性2 シチズンシップに富んだ人材
の育成と連携に向けた取組み

取組項目

「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」の推進によるシチズンシップに富んだ人材の養成

取組実績
(具体的な
取組内容)

R5

①全30講座を実施しました。
 ②交流会「ここにわ」を3月に実施し、80人の参加がありました。ここにわ通信（メール送信）を修了生623人に対し、16件実施して情報提供しました。ここにわ相談を9件実施し、修了生の活動相談をしました。まちづくりマスターを4人認定しました。
 ③オンラインでの講座や報告会の実施があり、多様な学習形態の導入ができました。
 ④能力やスキル、キャリアを向上する学びから、地域経済を担う活躍やチャレンジに繋げることを目的とした「キャリアチャレンジ学部」として、4講座を実施しました。

R6

①全43講座を実施しました。
 ②交流会「ここにわ」を12月に実施し、57人の参加がありました。ここにわ通信（メール送信）を修了生862人に対し、23件実施して情報提供しました。ここにわ相談を13件実施し、修了生の活動相談をしました。まちづくりマスターを3人認定しました。
 ③オンラインでの講座や報告会の実施があり、多様な学習形態の導入ができました。
 ④能力やスキル、キャリアを向上する学びから、地域経済を担う活躍やチャレンジに繋げることを目的とした「キャリアチャレンジ学部」として、16講座を実施しました。

R7

R8

指 標

年度

R5

R6

R7

R8

大綱最終年度
(R12年度)
目標値

総合課程、専門課程、ブレ課程における延べ修了生数

計画

2,695人

3,050人

3,405人

3,760人

実績

3,075人

3,724人

総合課程、専門課程、ブレ課程の修了生のうち、地域や社会のために活動したい人の割合

計画

95.0%

95.0%

95.0%

95.0%

実績

98.2%

98.0%

総合課程及び専門課程の修了生のうち、受講後1年間の間に地域や社会のために活動した人の割合

計画

65.0%

65.0%

65.0%

65.0%

実績

62.4%

64.7%

局 名

市民局

所管課

生涯学習推進課

第3次後期実施計画個票No.
(継続取組のみ)

I-1-1-1

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.

I-2-2

基本方針

I 人とつながる

施策

I-2 共にまちづくりを進める人材の育成

参考：
方向性

3 積極的な情報発信

取組項目

静岡市プラモデル化計画の推進によるプラモデルを活用した情報発信

現状等

戦略産業であるホビー産業の単なる支援にとどまることなく、ホビー産業を代表する模型（プラモデル）をシティプロモーション及び街の活性化や古来より本市に根付く「ものづくり精神」を継承する人材育成などの総合的なまちづくりに活用し、将来にわたって本市の存在感を高めていくため、「静岡市プラモデル化計画」を発表するとともに、新たに産業振興課内に専属従事できるようプラモデル振興係を新設しました。

取組概要
(前期計画)

総合的なまちづくりにおいては、行政だけの取組みとせず、この取り組みを理解し、後押しや協力していただける市民を増やし、官民一体となって推進する取組みが必要不可欠となります。

そのために、プラモニュメントの設置などの「体感できる環境づくり」、ものづくりプラモデル大学などの「ともに発信する人材づくり」、プラモデルと他業種のコラボなどの「体験できる場づくり」を3つの柱として、静岡市プラモデル化計画推進事業を推進し、「模型の世界首都」への誇りを持ち、自律的に模型を発信する市民の数を増やすための取り組みを図っていきます。

取組内容
(計画・実績)

年度

R5

R6

R7

R8

R9～12の取組

計画

静岡市プラモデル化計画推進事業の推進
(プラモニュメントものづくりプラモデル大学 など)

→継続

→継続

→継続

実績

◎実施

→継続

凡 例

△調査・検討、○一部実施、◎実施、→継続、●実績なし、×中止

進 捗

②

凡例

①計画より進んでいる ②計画どおり ③計画より遅れている ④実績なし

効果

地域資源であるプラモデルを官民一体となって磨き上げ、「静岡市プラモデル化計画」を推進する担い手を育てることにより、自発的な取り組みが市内全域で展開され、「模型の世界首都」として、本市を将来にわたって活力ある都市へと高めていくことが図られます。

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.	I-2-2
参考： 方向性	3 積極的な情報発信

取組項目		静岡市プラモデル化計画の推進によるプラモデルを活用した情報発信					
取組実績 (具体的な 取組内容)	R5	①環境づくりにおける主な実績 ・民間設置プラモニュメント5基を支援、PRキャンペーン2回実施 ②人財づくりにおける主な実績 ・ものづくりキャリア教育978名の受講、ホビーショー小中高生招待日3,894人受入、ものづくりプラモデル大学33名受講 ③コンテンツづくりにおける主な実績 ・企業・団体等とのプラモデルを活用したコラボイベント6件の開催					
	R6	①環境づくりにおける主な実績 ・民間設置プラモニュメント3基を支援、プラモニュメント画像SNSキャンペーン1回実施、プラモニュメントスタンプラリー1回実施 ②人財づくりにおける主な実績 ・ものづくりキャリア教育1,046名の受講、ホビーショー小中高生招待日3,696人受入、ものづくりプラモデル大学30名受講 ③コンテンツづくりにおける主な実績 ・企業・団体等とのプラモデルを活用したコラボイベント9件の開催 ・高校生を対象としたプラモデルの展示会・コンテスト「全国プラモデル選手権大会」を初開催し、25校参加 【指標の目標を下回った理由及び今後の取り組み】 模型の世界首都を誇りに思い、自律的に発信する市民の割合の増加には、まず市民の模型の世界首都の認知度を高める必要があります。現状、模型ファンにはある程度認知されていますが、模型ファン以外の認知度が低いため目標を下回っています。今後は、多くの方に認知されやすいプラモニュメントの設置増加に向け、企業への協力依頼を行うとともに、模型に関心のない人が多く集まるイベントでプラモデルの制作体験を行うなど認知向上に取り組んでいきます。					
	R7						
	R8						
指 標		年度	R5	R6	R7	R8	大綱最終年度 (R12年度) 目標値
産業フェアアンケート調査における「模型の世界首都」への誇りを持ち、自律的にプラモデルを発信する市民の割合 (令和4年度：39.3%)		計画	40.7%	42.1%	43.5%	44.9%	50%
		実績	44.5%	36.8%			
局 名		経済局		所管課	産業振興課		
					第3次後期実施計画個票No. (継続取組のみ)		—

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.

I-2-3

基本方針

I 人とつながる

施策

I-2 共にまちづくりを進める人材の育成

参考：
方向性

2 シチズンシップに富んだ人材の育成と連携に向けた取組み

取組項目

地域コミュニティの活動に積極的に関わる区民の育成

現状等

第3次行財政改革推進大綱実施計画において、より区民が主体となり事業運営を行えるよう、「地域の人材育成事業」の修了者である「駿援隊」の組織化を目指していたところ、修了生が地域コミュニティにおける活動へ参画したり、魅力づくり事業へ協力したりするなど徐々に実績を残してきました。今後も「駿援隊」修了生が継続して活動できる状況を整備することが必要です。（「駿援隊」は、「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」の一環として実施しているものです。）

取組概要
(前期計画)

地域の人材育成事業の修了者である「駿援隊」の組織化を推進するため、事業終了後も引き続き修了生同士が繋がる場としてフォローアップ会議を開催しています。日ごろの活動状況や課題など情報共有してもらうことで繋がりを深めていただくなど修了生のネットワーク化を支援し、地域コミュニティの活動に積極的に関わる人々を育成します。

取組内容
(計画・実績)

年度

R5

R6

R7

R8

R9～12の取組

計画

◎①「駿援隊」の
フォローアップ
◎②「駿援隊」の
ネットワーク化支援

→継続

→継続

→継続

→継続

→継続

→継続

継続実施

実績

◎実施
◎実施

→継続

→継続

凡 例

△調査・検討、○一部実施、◎実施、→継続、●実績なし、×中止

進 捗

②

凡例

①計画より進んでいる ②計画どおり ③計画より遅れている ④実績なし

効果

自治会、町内会等の地域コミュニティの活性化が図られるとともに、地域間の横のつながりによる情報共有及び人的ネットワークが構築されます。

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.	I-2-3
参考： 方向性	2 シチズンシップに富んだ人材の育成と連携に向けた取組み

取組項目		地域コミュニティの活動に積極的に関わる区民の育成					
取組実績 (具体的な 取組内容)	R5	①「駿援隊講座」修了生の実施する防災出前講座における物品貸出や、活動事例発表における資料作成など、随時修了生の活動をサポートしました。また、修了生限定のフォローアップ講座を、静岡県地震防災センターにて開催し、施設インストラクターの説明をうけた後、地域で防災を啓発する際の伝え方の方法やコツを講師から学ぶ場を設けることで、修了生のレベルアップにつなげました。 ②駿援隊修了生限定グループラインへの参加を令和5年度修了生およびフォローアップ講座参加者にも再度促すことで、昨年と比較して加入者を22名増やすことができました。					
	R6	①「駿援隊講座」修了生の実施する防災出前講座における物品貸出や、活動事例発表における資料作成など、随時修了生の活動をサポートしました。また、当課で主催したスルガフェスにて、修了生による防災展示をしていただき、防災啓発と駿援隊の周知を実施しました。さらに、修了生限定のフォローアップ講座を、駿河区役所にて開催し、地域で防災を啓発する際の伝え方の方法やコツを講師から学ぶ場を設けることで、修了生のレベルアップにつなげました。 ②駿援隊修了生限定グループラインへの参加を令和6年度修了生およびフォローアップ講座参加者にも再度促すことで、昨年と比較して加入者を14名増やすことができました。					
	R7						
	R8						
指 標		年度	R5	R6	R7	R8	大綱最終年度 (R12年度) 目標値
①フォローアップ会議等の開催回数	計画		3回	3回	3回	3回	3回
	実績		5回	4回			
②ネットワーク参加者数	計画		30人	33人	36人	39人	51人
	実績		51人	65人			
局 名		駿河区役所		所管課	駿河区役所地域総務課		
					第3次後期実施計画個票No. (継続取組のみ)		I-1-1-8

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.

I-2-4

基本方針

I 人とつながる

施策

I-2 共にまちづくりを進める人材の育成

参考：
方向性

2 シチズンシップに富んだ人材の育成と連携に向けた取組み

取組項目

大学と連携した生涯学習による社会人の学び直しの推進

現状等

6大学（静岡大学、静岡県立大学、東海大学、静岡英和学院大学、常葉大学、静岡理工科大学）とともに、「静岡市・大学連携生涯学習会議」を開催し、生涯学習事業の推進や社会人の学び直し（リカレント教育）などについて協議、情報交換することを通じ、本市に必要な大学の持つ知的資源を活用した学習のあり方を研究するとともに、生涯学習施設とも連携して各種講座などを実施しています。

<<連携内容>>

- ・静岡市・大学連携生涯学習会議の実施
- ・6大学が1講座ずつリレー形式で全6回の連続講座を開催する「市民大学リレー講座」の実施
- ・大学と生涯学習施設が連携して各種講座を実施
- ・大学で実施されている社会人の学び直し（リカレント教育）に関する市ホームページでの情報発信

取組概要
(前期計画)

静岡市・大学連携生涯学習会議を実施し、6大学との連携強化を図ることで、大学の持つ知的資源を活用した学習機会の提供や大学で実施されている「社会人の学び直し（リカレント教育）」に関する情報発信等に取り組み、市民の絶えず変化する予測困難な社会に適応していくために個人がアップデートするための学びを支援します。

また、市民大学リレー講座は、会場とオンライン配信を併用したハイブリット方式で実施し、デジタルを活用した多様な学び形態の導入を図ります。

- 取組① 静岡市・大学連携生涯学習会議の継続による連携強化
取組② 市民大学リレー講座の実施
取組③ 大学と生涯学習施設との共催公開講座の実施
取組④ 社会人の学び直しに関する情報発信
取組⑤ デジタルを活用した多様な学び形態の導入

取組内容
(計画・実績)

年度

R5

R6

R7

R8

R9～12の取組

計画

①◎静岡市・大学連携生涯学習会議の開催
②◎市民大学リレー講座の実施
③◎生涯学習施設と大学の連携講座の実施
④◎社会人の学び直しに関する情報発信
⑤◎市民大学リレー講座のハイブリット方式での実施

①→継続
②→継続
③→継続
④→継続
⑤→継続

①→継続
②→継続
③→継続
④→継続

①→継続
②→継続
③→継続
④→継続

継続実施

実績

①◎実施
②◎実施
③◎実施
④◎実施
⑤◎実施

①→継続
②→継続
③→継続
④→継続
⑤→継続

凡 例

△調査・検討、○一部実施、◎実施、→継続、●実績なし、×中止

進 捗

②

凡例

①計画より進んでいる ②計画どおり ③計画より遅れている ④実績なし

効果

大学との連携により、市民に専門的且つ高度な学びとして、社会人の学び直し（リカレント教育）の機会を提供できます。

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.	I-2-4
基本方針	I 人とつながる
施策	I-2 共にまちづくりを進める人材の育成
参考：方向性	2 シチズンシップに富んだ人材の育成と連携に向けた取組み

取組項目		大学と連携した生涯学習による社会人の学び直しの推進					
取組実績 (具体的な 取組内容)	R5	①④静岡市・大学連携生涯学習会議を6月と2月の2回実施し、6大学との連携強化を図りました。また、連携の一貫として、市ホームページに6大学の「社会人の学び直し（リカレント教育）」に関する情報を掲載し、一体的な情報発信に取り組みました。 ②⑤「まなびのリスタート」をテーマに、6大学が1コマずつリレー形式で講座（全6回）を実施しました。社会人が参加しやすいように、会場とオンラインのハイブリット形式で実施し、51人（会場28人、オンライン23人）の参加があり、満足度は80.5%となりました。 ③生涯学習施設と大学との共催公開講座を24回開催し、延べ参加者数は521人、満足度は89.2%となりました。 共催公開講座の開催回数については、新型コロナウイルス感染症により共催公開講座の実施を取り止めて再開していない大学があるため、計画の35回を5回下回る結果となりました。 今後は、計画の開催回数を達成できるよう、再開に向けて大学と協議していきます。					
	R6	①④静岡市・大学連携生涯学習会議を5月と3月の2回実施し、6大学との連携強化を図りました。また、連携の一貫として、広報しずおか「社会人の学び直し（リカレント教育）」に資する6大学の講座情報を掲載し、市民への情報発信に取り組みました。 ②⑤「Reまなび＝大人の学び」をテーマに、6大学が1コマずつリレー形式で講座（全6回）を実施しました。社会人が参加しやすいように、会場とオンラインのハイブリット形式で実施し、68人（会場43人、オンライン25人）の参加があり、満足度は83.3%となりました。 ③生涯学習施設と大学との共催公開講座を25回開催し、延べ参加者数は515人、満足度は87.7%となりました。 共催公開講座の開催回数については、取り止めとなった講座があり、計画の35回を4回下回る結果となりました。 今後は、計画の開催回数を達成できるよう、生涯学習施設と大学と協議していきます。					
	R7						
	R8						
指 標		年度	R5	R6	R7	R8	大綱最終年度 (R12年度) 目標値
静岡市・大学連携生涯学習会議の開催回数	計画		2回	2回	2回	2回	
	実績		2回	2回			
静岡市・大学連携生涯学習会議の枠組みにより開催する市民大学リレー講座及び生涯学習施設と大学との共催公開講座の開催回数	計画		35回	35回	35回	35回	
	実績		30回	31回			
局 名		市民局		所管課	生涯学習推進課		
				第3次後期実施計画個票No. (継続取組のみ)		—	

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.

I-2-5

基本方針

I 人とつながる

施策

I-2 共にまちづくりを進める人材の育成

参考：
方向性2 シチズンシップに富んだ人材
の育成と連携に向けた取組み

取組項目

新幹線通学費貸与事業による若者の定住促進

現状等

若者が市内で生活し、市民及び地域社会と関わる機会を増やすことにより、若者の定住の促進及び地域社会を担う人材の確保を図り、もって活力ある地域社会の実現に資することを目的に、県外にある大学等への通学に要する資金を予算の範囲内で貸与しています。

また、本事業利用者のうち、定住した者へのインセンティブとして、静岡市の市民税の所得割を完納した場合に、貸与金の返還を免除しています。

静岡県の平均が37%とされている地元就職率は、本事業利用者においては60%以上を保っており、事業の効果が表れているものと考えられます。

今後もさらなる利用者増加のため、効果的な広報の実施や利用をしやすいよう制度の変更の検討を行うとともに、地元就職率向上のため、就職情報をタイミングよく提供していきます。

○新規申請者数：85人(R3年度末)
※新型コロナウイルス対策の影響等により、新規申請者数が一時落ち込みました。

○返還手続きを行った卒業者の地元就職率：62.3%

○平均地元就職率：37%（参考：R3年度しずおか産業就職連絡会資料より）

取組概要
(前期計画)

本市に居住し、県外の大学等へ新幹線で通学する30歳未満の学生を対象に、新幹線定期代の一部を無利子で貸与します。

取組内容
(計画・実績)

年度

R5

R6

R7

R8

R9~12の取組

計画

→継続

→継続

→継続

→継続

→継続

実績

◎実施（継続）

→継続

凡 例

△調査・検討、○一部実施、◎実施、→継続、●実績なし、×中止

進 捗

②

凡例

①計画より進んでいる ②計画どおり ③計画より遅れている ④実績なし

効果

新幹線通学費の一部を貸与することで、若者の地元定着を促し、地域社会や産業等を支える人材を確保することに寄与します。

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.	I-2-5
基本方針	I 人とつながる
施策	I-2 共にまちづくりを進める人材の育成
参考：方向性	2 シチズンシップに富んだ人材の育成と連携に向けた取組み

取組項目		新幹線通学費貸与事業による若者の定住促進					
取組実績 (具体的な 取組内容)	R5	・遠距離にある大学等への通学に要する資金の貸与を新規で申請する者に対し、貸与の決定を行いました。（令和5年度新規申請者数：80人） ・地元就職率向上のため、制度利用者に対し、就職情報の提供に取り組みました。（令和5年度に返還手続きを行った卒業者の地元就職率：70%）					
	R6	・遠距離にある大学等への通学に要する資金の貸与を新規で申請する者に対し、貸与の決定を行いました。（令和6年度新規申請者数：77人）地元就職率向上のため、制度利用者に対し、就職情報の提供に取り組みました。（令和6年度に返還手続きを行った卒業者の地元就職率：63%） ・計画を下回った理由は、卒業し就職した者68人のうち、25人が市外へ転出したためです。アンケート調査によると、市外転出した理由は「静岡市や近隣市町内に希望する企業（業種）がない」との回答が最も多く（回答者16人中12人）、県外大学では地元企業の就職情報を扱っていないため、地元企業が若者に知られていないことも要因の一つと考えられます。今後の対応としては、就職活動の早期化に合わせ、地元の就職情報の提供を早める他、新規に移住・就職支援員による就職支援を行います。					
	R7						
	R8						
指 標		年度	R5	R6	R7	R8	大綱最終年度 (R12年度) 目標値
返還手続きを行った卒業者の 地元就職率 (R3年度 62.3%)		計画	65%	65%	65%	65%	65%
		実績	70%	63%			
局 名		総合政策局		所管課	企画課		
					第3次後期実施計画個票No. (継続取組のみ)	—	